

5 青少年教育指導者等の養成及び資質の向上に関する事業
ア 青少年指導者等の養成・研修事業



自然体験活動指導者(NEALリーダー)養成事業

〔主催〕 国立諫早青少年自然の家
 〔期日〕 令和6年1月6日(土)～ 8日(月・祝)【2泊3日】
 〔会場〕 国立諫早青少年自然の家
 〔参加者〕 年度末年齢 16 歳以上(高校生以上)の方 19名
 〔講師〕 薄井 良文 氏(WakuWakuOFFICE あそ Be 隊 隊長)
 福蘭 恵子 氏(諫早市こどもの城 主任専門員)
 森本 弘太 氏((一社)センスオブネイチャー プログラムディレクター)
 〔担当職員〕 寺中 拓也(自然体験活動指導者 主任講師)、貞方 貴衣

1)趣旨

自然体験活動指導者認定制度のもと、自然体験活動指導者(NEALリーダー)の資格取得に必要な講習会(概論Ⅰ)を開催し、専門的な知識と技術をもって自然体験活動の普及や振興に貢献する指導者を養成します。

2)SDGsで目指す姿

 <p>4 質の高い教育をみんなに</p>	 <p>13 気候変動に具体的な対策を</p>	<p>目標4 質の高い教育をみんなに 青少年の抱える課題を解消し、健全な育成を図るため、正しい知識と経験を有する指導者を養成する。</p> <p>目標13 気候変動に具体的な対策を 自然環境への影響を最小限に抑え、ローインパクトな自然体験活動を提供できる力を身に付けた指導者を育成する。</p>
--	--	---

3)目標

- ①自然体験活動指導者養成カリキュラムに沿って、自然体験活動の基礎的な知識や技術を理解する。
- ②参加者同士の交流を促進し、今後につながる指導者ネットワークを作る。

4)プログラム

1日目	2日目	3日目
11:00 開講式、ガイダンス	7:15 朝のつどい	6:30 起床、荷物整理等
12:00 昼食	7:30 朝食	7:15 朝のつどい
13:00 自然体験活動の技術1 (アイスブレイク、テント設営) 【写真①】	9:00 自然体験活動の指導 【写真③】	7:30 朝食
16:00 自然体験活動の技術2 (野外炊事) 【写真②】	10:30 対象者理解【写真④】	9:00 自然体験活動の 安全管理【写真⑥】
20:00 入浴	12:00 昼食	12:00 昼食
	13:00 テント撤収	13:00 試験説明
	14:00 自然体験活動の特質 【写真⑤】	13:30 修了試験
	17:30 夕食、入浴	14:00 閉講式
	19:00 青少年教育における 体験活動	

5)事業展開

①自然体験活動の技術1



参加者の交流を促進するため、アイスブレイクの考え方を体験を通して学びました。

その後、初日に就寝するテントを設営しました。ペグの打ち方、風の方向、テントを張る場所等、気を付ける点を自分たちで考えながら実施しました。

②自然体験活動の技術2



ダッチオーブンを使用したパン作りを中心に、シチューやきな粉餅を作りました。

薪割りでは、様々な方法を実践し、対象に応じた割り方があることや、寒い季節でも工夫することで野外炊事が可能であることを理解しました。

③自然体験活動の指導



屋内で実施したアクティビティを踏まえ、自然体験活動における指導の考え方について、リーダーシップ理論を中心に理解しました。

対象や集団の状況に応じて、様々な指導のスタンスがあることを学びました。

④対象者理解



エリクソン(アメリカの発達心理学者)の心理社会的発達理論を踏まえ、各年齢期に応じた自然体験の企画を考え、発表しました。

サバイバルやクリスマス等、様々なテーマを持った企画が生まれました。

⑤自然体験活動の特質



動物たちが残っていたUNCO(未確認自然循環物体 ※講師の造語)を屋内で観察し、何を読みとることができるか学びました。その後、屋外でUNCOを探してみることで、自然体験も様々な視点で活動を提供できることを理解しました。

⑥自然体験活動の安全管理



防災クイズや火災発生時の対応についての講義を受けたのち、様々な傷病者への対応について、模擬実習を踏まえて解説をいただきました。

頭では理解していても、実際に行動することは難しいことを痛感していました。

6) 評価

① アンケート結果(事業全体に対する満足度)

満足	やや満足	やや不満	不満
95%	5%	0%	0%

② 参加者の声

○ 全体を通して

- ・ 私が知らない内容、知りたい内容ばかりで、全てが学びの場だった。
- ・ プログラムの流れ、順序が良かった。グループでの活動が多く、自分の考えを話す機会が多かった。

○ 森本講師への感想

- ・ 子供たちと関わる時に、どのような関わり方が一番良いのかずっと悩んでいたが、子供たちやグループの状況に合わせて変えることが大切だと理解できた。
- ・ 自分がどういう指導者になりたいか、対象によってどんな指導をしたらよいか、実践する中で気づくことがあった。子供たちが楽しくなるようなアクティビティを実践したいと思った。

○ 福菌講師への感想

- ・ あまり考えたことがなかった視点の話を聞いて良かった。フィールドに出て歩き回ると、様々な発見があり、自然との関わりが持てたと感じて嬉しかった。
- ・ 自分の考え方が180°変わった。今まで興味がなく、何の知識もなかったが、知識を得ることで面白いと感じるようになり、自然との向き合い方が変わった。

○ 薄井講師への感想

- ・ 知っているか知らないかで、実際の現場で適切な判断、予知に大きく影響してくるなど実感した。また、しっかり理屈を理解することで、処置の意味に理解が深まった。何事にも考えることの必要性が大事で、どこに生きてくるのか意識しながら生活したい。
- ・ 知識や技術はもちろん、話術と人の意識(気持ち)をぐっとつかむ振る舞いがとても勉強になった。

7) 成果と課題

① 成果

- ・ これまで当施設では、ボランティア養成研修に併せて NEAL リーダーの資格取得が可能なよう実施していたが、今回はあえて同研修とは分けて実施した。そのねらい通り、学生だけでなく青少年教育施設の職員他、様々な方に参加いただくことができ、多様な背景や考え方を持った参加者同士が学び合う場を作ることができた。また、直前のキャンセルが出たものの、定員20人を超える申込みがあった。
- ・ 自然体験活動を様々な視点から提供する講師に協力いただけたことで、参加者の満足度は非常に高いものとなった。また、講義や実習、個人での活動やグループワーク等、全体のプログラムのバランスに関しても、高評価をいただくことができた。

② 課題

- ・ 次年度は、当施設で NEAL インストラクター(NEAL リーダーの上位資格)養成事業の実施を予定しているため、今回の参加者が同養成事業に参加していただけるよう引き続き演習のフォローアップを行っていく。
- ・ 冬の開催時期は、様々な対象者が参加しやすいメリットがあるものの、寒さが厳しく屋内での活動が中心となってしまいがちである。もう少し屋外での活動をしたかったという意見もあったため、プログラム検討時に考慮する必要がある。